

千葉市 手をつなぐ育成会だより

第 167 号

令和 4 年(2022) 7 月15日
千葉市手をつなぐ育成会

会 長 成 田 智 子

千葉市稲毛区作草部2-4-5
でい・さくさべ 2 階

TEL・FAX 043-206-4050

✉ chibacity-hands@ikusei-kai.jp

総会 三年ぶりに開催

令和四年度総会が、5月26日
稲毛保健福祉センターにて3年
ぶりに開催されました。会員数
516人のうち、出席者35人、委任
状提出322人で会員数516人の過半
数を満たし成立しました。

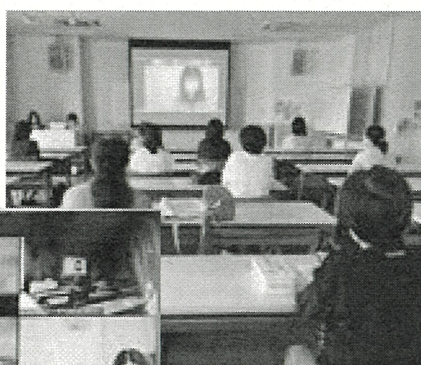
令和二、三年度総会は書面決
議でしたが、今年度は、オンラ
イン配信と、稲毛保健福祉セン
ターの大会議室にて配信をご覧
いただく形式としました。

『議事・基本方針』

令和三年度事業報告、決算報
告及び監査報告、令和四年度事
業計画案及び予算案は全て承認
されました。

今年度の基本方針は知的障害
のある人それぞれが社会の一員
として自分らしく暮らしていけ
るよう、さまざまな活動に取り
組むこと、また会員同士のつな
がりや安心を感じていけるよう
に活動を検討し、福祉がよりよ
くなるように行政へ働きかけて
いきます。

大会議室で →
視聴しました



↑
オンラインで
参加



議事進行は別室にて

また本年度から、知的障害
では初めて市内小学校への福祉
講話に参加します。キャラバン
隊「ちらら」(注)をお願いする
ことになりました。

役員改選では、5人の新役員
と2人の監事を加えた24人が今
年度の役員として承認され、旧
役員の代表として前副会長の土
戸さんより挨拶がありました。

『会員からの意見・質問』
○福祉講話参加の際の費用負担
について

○法人の新規のグループホーム
の入所者募集は法人関係者の
みなのか(回答・育成会会員
も募集があります)

○千葉市のグループホームの現

新年度にあたり

今年度千葉市では、障害者基
幹相談支援センターと地域生活
支援拠点が統合となります。統
合後は従前の地域生活支援拠点
としての独自の役割を基幹相談
支援センターが担うこととなる
との回答をいただいているとこ
ろです。

統合により、障害者の重度化・
高齢化や「親なき後」を見据え
た、居住支援のための場所や体
制、特に緊急時の受け入れ、体

状について
○法人と親の会のつながりにつ
いて

『法人の動き』

社会福祉法人千葉市手をつな
ぐ育成会栗原一雄理事長より、
グループホーム「ホタル」の老
朽化に伴う移転や、事業をより
深く知ってもらえるよう、各事
業所への育成会の役員の見学な
どを計画されている旨のお話が
ありました(P2参照)

(注)キャラバン隊「ちらら」・
平成29年より育成会会員と一般
の方がメンバーとなり、疑似体
験を通して、知的障害・自閉症
を知っていただく活動をしてい
ます。(広報部 小野塚)

会長 成田 智子

験の場・機会の提供などが前進
するよう見守っていく必要があ
ると考えます。

育成会では今年度、総会そし
て、受託しておりますゆうあい
ピックも開催することができ、
少しずつではありますが顔を合
わせることが出来るようになって
きています。引き続きオンラ
インの利点も取り入れながら会
員の皆様とのつながりを大切に
進めてまいります。

コロナ禍における活動の広がり

日ごろは当法人の運営に多大なるご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。新型コロナウイルスの終息はまだまだ見えてきませんが、基本的な感染症対策を講じ、国、県、市の動向を見ながらコロナ禍前の状態に少しでも近づけるように活動を広げ、利用者及び家族の皆さまの安心、安全を第一に法人運営に努めて参ります。



さて、令和4年度は各事業所において大幅な人事異動を行いました。特に

令和4年度の法人運営について

(社福)千葉市手をつなぐ育成会

理事長

栗原 一雄



管理者の異動は、利

用者及び家族の皆さま

ま方にとって不安が

強いと思いますが、

人が変わることで組

織に風が吹き、流れ

ができる良い効果も

あると考えていま

す。そのため、これまで伝えることが

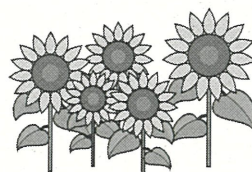
できずにいた皆様方のご意見やご要望

がございましたら、遠慮なく各管理者

に提言してください。その一つひとつ

を真摯に受け止め改善等に努めたいと

考えております。



虐待防止委員会の役割

法人では、障害のある方々の権利擁護に対して職員委員会を組織し、日々質の高い支援を目指す取り組みをしています。その中においても、虐待防止委員会の設置が義務付けられたことを受けて、職員が虐待防止を日常的に考える機会を令和3年度から増やしてきました。このような取り組みは全国的に広がってきていますが、それでもなお虐待事件報道は後を絶ちません。日常の何気ない支援の慣れがいつしか虐待の芽になっていくことを職員一人ひとりが認識し、法人外で生じてしまった虐待事件を対岸の火事にとらえず、常に我が事として自分たちの支援を振り返る取り組みを虐待防止委員会で行っていきます。

高齢化対応とグループホーム移転

利用者及び家族の高齢化に対応することは、法人にとっても重要事項の一つとなっています。そんな中、グループホームの共同生活同居ホタル(定員5名)が建物の老朽化のため移転先を検討していく過程において、若葉区源町に日中活動支援型のグループホームとなり得る物件と出会い、長期賃貸契約を締結することができました。そこでは、1階部分に定員10名の共同生活同居、2階部分に定員10名の共同生活同居を構え、各共同生活同居には定員2名ずつの短期入所事業も併設されることとなります。令和4年度末にはホタルが移転し、令和5年4月以降に全館オープン予定で現在準備を進めています。千葉市手をつなぐ育成会の皆さま方には、今年夏頃を目途に詳細なご案内ができる予定でおります。

このようにグループホームが広がっていくこととあわせて、職員の確保、育成、定着も重要事項の一つとなっています。職員一人ひとりが仕事に対してやりがいを持ち、生涯にわたって仕事を継続できる職場環境を作り、多様な働き方ができる組織づくりをしながら、法人の理念の実践を職員全員が同じ志で行っていきます。そのためにも、千葉市手をつなぐ育成会会員の皆様方からのご指導、ご鞭撻を今後ともよろしくお願い申し上げます。

**安心して
社会参加
するために
地区別バリアフリー
基本構想策定**

千葉市では、全面的なバリアフリー化の促進に向けた方針を示すとともに、重点整備地区(①旅客施設の乗降客数②生活関連施設の立地数③人口に基づく優先度等を踏まえた上で設定)の見直しや特定事業の設定を行い、令和3年3月に「千葉市バリアフリーマスタープラン」を策定しました。(育成会だより164号掲載)

その中で選定されたJR/京成稲毛地区において具体的なバリアフリー化に向けた事業を位置づけるため、令和4年3月に地区別バリアフリー基本構想を策定しました。

策定にあたり、育成会会員も参加してのまち歩き点検や、事業者との意見交換会では、日頃、交通機関などを利用するにあたり、感じていることなどを直接お話しする機会となり、とても有意義なものとなりました。

千葉市では他地区での地区別バリアフリー基本構想の策定にあたり、本計画における検討内容をモデルとし、他地区に展開することで早期のバリアフリー化を図ります。(副会長 大里)

部活動



副会長と理事はいずれかの部活動に所属し活動します。

今年度の育成会役員は会長1人、副会長4人、理事17人です。

▼昨年は初めてのオンラインでの研修会「障害者基幹相談支援センター」を開催しました。私たちにとって、とても身近で分かりやすい内容でしたが、参加者が少なくオンラインでの研修の難しさを感じました。知的障害のある人達もコロナ禍を乗り越えて少しずつ生活の幅を広げ、生き生きと暮らして欲しい。その為に会員の皆様にとつて有意義で参加しやすい研修会を企画したいと考えておりますので、ご参加いただけると嬉しいのです。

▼先日配布させていただいた「親子で行く日帰り旅行」の冊子をご覧いただけたでしょうか？

文化部では年一回の親睦旅行や現地集合解散での見学会、お食事会、ワークショップなどを開催して参りました。普段なかなかお会いする機会がない会員同士の交流の場として、毎回たくさんの方にご参加いただいております。新型コロナウイルス感染症が落ちましたら、親睦旅行を再開したいと思っております。

▼広報部は、「育成会だより」を年3回発行しています。「育成会だより」は、各部や委員会活動の記録を残していくことはもちろんですが、障害児者の日々の生活や活動を紹介すること、制度、全国の情報などを一般の方々にお知らせするという啓発活動の一部も担っています。各区の保険福祉センターに置かれ、市のホームページにも掲載されています。

会員の方へ読みやすく、わかりやすい紙面を心がけていきます。

広報部

研修部

レク部

文化部

▼レク部は、「のんびり山オーケストラ」・千葉大のチアリーディング「リップス」・「よさこいソーランチーム☆利蔵」・淑徳大や施設職員などのボランティアの協力で毎年12月の第2日曜日に開催する「クリスマス会」を担当しています。新型コロナウイルス感染症のため2年間開催できず、昨年は「クリスマスカード」を会員の皆様に送らせていただきました。今年度も皆様に楽しんでいただける企画を検討中です。

▼レク部は、「のんびり山オーケストラ」・千葉大のチアリーディング「リップス」・「よさこいソーランチーム☆利蔵」・淑徳大や施設職員などのボランティアの協力で毎年12月の第2日曜日に開催する「クリスマス会」を担当しています。新型コロナウイルス感染症のため2年間開催できず、昨年は「クリスマスカード」を会員の皆様に送らせていただきました。今年度も皆様に楽しんでいただける企画を検討中です。

委員会活動



委員会は会員ならばどなたでも参加できます。ぜひ、ご参加下さい。

▼あんしん委員会は、我が子が行方不明になった時の対策・千葉市災害時要援護者支援計画」などの紹介・千葉市の福祉避難所の備蓄品として各指定避難所に配備されている「コミュニケーション支援ボード」の素案作成・知的障害者の親として災害時等、何かあったときのために日頃備えておくことなど、地域で安心して生活するためのさまざまな情報を持ち寄っています。

この2年間は、メールでの情報交換をしていました。

▼せいかつ委員会は親子きあと、住み慣れた地域で安心して暮らしていくための方策は？我が子に合う暮らしはどんな暮らし？等を制度面、法律面、サポート体制からみんなで話し合いをしていきます。

今年度の主な活動としては、コロナ禍もあり、発行から13年経過した「この子の記録」改訂版の検討、研修会では委員会メンバーから要望がでている「成年後見制度について」を予定しています。

せいかつ委員会

あんしん委員会

こども会

はたらく委員会

▼はたらく委員会は、学校を卒業した後の子ども達の「はたらく」「生活していく」「余暇活動」など日常での出来事や悩みや不安などを気軽に話せる親だけのお話会と、親子参加で活動する料理教室を行っています。

近年は感染防止のために料理教室を行うのは難しい状況ですが、オンラインで親だけのお話会と、子ども達も一緒にお話する会を行いました。

今年度も、定期的なお話会と親子参加できる活動を企画していきます。

▼こども委員会は、学齢期の子供の親が主なメンバーです。子供の成長や学校のこと、日頃の悩みを話したり、勉強会などを行っています。親子で楽しめる企画に挑戦中で、昨年度は親子ウォーキングを行いました。メンバーのアイデアから企画が生まれる委員会です。今年度は親子企画に加えて、子供や家族の暮らしの安心につながる研修会開催や親自身の健康・心のメンテナンスにも目を向けて、アイデアを集めていきます。

ゆうあいピック三年ぶりに開催 熱い想いを胸に

陸上

第30回千葉市ゆうあいピック大会が5月18日に3年ぶりに開催されました。(卓球は5月8日)。

前日までの雨続きは止み、大会を祝福するかのような五月晴れの中、出場競技にいきいきと取り組んでいる選手や午前中だけの大会でも陽に焼けている選手がいるのが印象的でした。

今回、青葉の森公園では、開・閉会式やリレー種目、メダル授与式の廃止、フライングディスク競技は野球場を使用、通路や出入口の指定、それから無観客と様々なコロナ禍対策がとられています。

ある事業所の責任者の方は「今年は開催するというので、張り切って練習に励んできた。」「会話は控え目にし、大声での応援は避け、拍手で応援する。」「午前中での競技終了は物足りないが、2年間の中止を思えば、育成会をはじめ大会関係者の方々の尽力に感謝したい」と発言されていました。

来年はいつもの競技種目に戻り、もっと多くの皆さんが参加でき、表彰式でも恒例の万歳三唱ができるよう願っています。
(副会長 佐久間)

ボウリング



ボウリング競技は、三年前と同じ場所のVEGAアサヒボウリングセンターで行われましたが、感染対策のため、競技のルール変更や、席は一つ開けて座るなど、細かいところでの会場の使用方法の変更が余儀なくされました。

そのためか、多少の緊張感を漂わせながら、選手44人、ボランテアの方々が29人で競技がスタートしましたが、始まってみるといつしかコロナ禍以前と同じ活気が戻ってきていました。



会場は、真剣な眼差しの選手の一投一投から弾き出されるピンの軽快な音で溢れ、ボランテアの方々の力強い応援や励まし、そして選手の皆さんと一緒に喜ぶ一憂し合う姿があちこちに見られ、競技はスムーズに行われました。

「お疲れ様!」とお互いに言い合いながら解散し、無事に競技を終えることができました。

ご協力をいただいた皆様、今年もありがとうございました。(会員 土戸)

育成会のうごき 3月~6月

- 3月9日 【全育連】正会会長・事務局長会議・オンライン
- 10日 障害児(者)のための摂食嚥下指導事業推進委員会・オンライン
- 18日 法人理事会
- 23日 千葉市における成年後見制度促進に係る地域連携ネットワーク協議会・オンライン
- 〃 【全育連】育成会フォーラム・行政説明会・YouTube配信
- 25日 千葉市社会福祉協議会評議員会
- 29日 法人定時評議員会
- 〃 法人理事会
- 4月14日 関東甲信越ブロック手をつなぐ育成会連絡協議会代表者会議・オンライン
- 5月8日 第30回千葉市ゆうあいピック(卓球)
- 18日 第30回千葉市ゆうあいピック(ボウリング・陸上・水泳)
- 19日 千葉大学教育学部附属特別支援学校評議員会・オンライン
- 23日 第69回総会・オンライン、対面
- 27日 法人理事会
- 31日 特別支援連携協議会
- 6月3日 市立養護学校評議員会
- 16日 障害児(者)のための摂食嚥下指導事業推進委員会・オンライン
- 22日 法人評議員会
- 29日 【全育連】総会・オンライン
- 〃 千葉市社会福祉協議会評議員会



全国手をつなぐ育成会連合会発行の機関誌「手をつなぐ」では、知的な障害のある人々が、地域の中で生活していくための必要な情報、制度を写真、イラストを使って分かりやすく掲載しています。ぜひ、「手をつなぐ」の定期購読をお願いします。お問い合わせは事務所まで。



◆22歳の息子には、親知らずがすっかり4本ありました。歯医者さんで、このままだと歯並びが悪くなると言われ、数年かけて一本ずつ抜きました。先日、ようやく最後の歯を無事に抜くことができ、親子共にほっとしています。(小野塚)

◆息子の進路決めが近づいてきました。小さい頃はコックさんになりたいと言っていた息子。今はどんな仕事をやりたいかと思っているのだらう。本人の意思を大切に一緒に考えていきたいと思っています。まずはもうすぐ実習があるので楽しみにしています。(御代)

この広報紙は「赤い羽根共同募金」の助成により発行されています。

